

■女性の三人に一人がパートタイマー

近年、サービス経済化がすすみ、パート労働の需要が高まる一方で、パートタイム労働者の数は、年々増加してきており、週間就業時間三五時間未満の短時間雇用者は、平成四年には、八六八万人で、その内、女性が七割ぐらいを占めています。

働く女性の三人に一人がパートという現在、パートタイム労働の中身も変わってきています。

かつての、単純補助作業が大半・雇用期間も短期という時代から、正社員と変わらない仕事をこなし、労働時間・就業年数もかなり伸びてきています。

しかし、パートタイマーの労働条件は良くなっていないません。

それでも女性がパートタイマーを選ぶ、あるいは選ぶざるをえない事情はなんでしょうか。

■五七・二%がパート満足派……

パートタイム労働者総合実態報告書(平成三年版)により、パートタイマーを選択した理由をみると、「自分の都合の良い時間に働きたい」(五八・九%)が最も高く、次いで、「勤務時間・日数を短くしたい」(三二・七%)、「家事・育児の事情」(三二・一%)となっています。

また、今後、どのような内容の仕事をしたいたいと想っているかについてみると、「全く同じ仕事で良い」とする人が五七・二%と最も多く、さらに、今の仕事を続けるか否かについてみると、「働き続けたい」と思う人は、六一・〇%と六割を超えており、仕事の継続意識が高いことがうかがわれます。

このことから

①女性の意識の中に、結婚や出産によりそのまま家庭におさまってしまうのではなく、しばらくしたら再び就業するという再就職型を望ましいと考える人が多い。

②その中には、家庭生活との両立を考慮し、パートタイム労働者として就労したいと考える人が多い。という傾向をよみとることができます。

パートタイマーって何だろう？

“働いている”という意識ありますか？

—パートタイム労働者総合実態報告書より—

■意識の底には「女は家庭」という考え

家庭をもった女性が再び働き始めるとき、まず、ネックとなることは、子どものこと、フルタイムで働くことに夫の同意をえられないことです。

再就職の目的は、自分本位の理由よりも、経済的理由が中心で、子どもの教育費や家のローンなど家計の補助のために働く人が多いのが現状のようです。

また、パートタイマーを選択する重要な理由は、税控除と家族(配偶者)手当受給可能な範囲内での就労です。妻の収入が、非課税限度額を超えると夫の所得に税金が掛かるだけでなく、夫の配偶者控除もなくなってしまうことが、パートタイマーへの選択を余儀なくしているのかもしれない。

■いきいきと働く主婦パートタイマー

しかし、パートタイマーの意識にも広がりが見られ、今のような仕事をそのまましたいという考え方以外に、もっとやりがいのもてる仕事や、技術・技能を生かせる仕事など、より能力の発揮できる仕事をしたいと考える人たちも増えてきています。

このような中で、パートタイム労働が適正な就業形態に位置づけられて、パートタイム労働市場が適性かつ健全に育成されていくために、平成五年八月、「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」(パートタイム労働法)が制定されました。

今後は、企業もパートタイム労働者に対して、補助的な労働というような昔のイメージでとらえず、また、そのイメージで雇用管理されないことが理想です。

また、パートタイマーの女性も、生産設計の中で、自分の働く目的や適性をしっかりと見極めて、いきいきと働いてほしいものです。



パートタイマーに満足してない？

●勤務時間・曜日は希望とおりなので満足ですが、欲をいえば時給がもう少しよければいい。
(20代・既婚・小売業)

●仕事は自分に合っているので満足です。でも正社員になれる道を年齢にかかわらず推進してほしい。
(40代・既婚・小売業)

●家から近いし、時間もちゃんとしてるし、こんなものだと思います。ただ、不況になるとクビきりが心配です。(40代・既婚・製造業)

●自宅から通っているのだからなにかなりませんが、生活のことを考えると、正社員になりたいですね。パートは賃金が安いし、労働条件も不確かですから。
(30代・未婚・サービス業)

●給料から待遇まで、社員との差別が多いし、責任をもたせてもらえないので不満です。パートなので、お休みをある程度優遇してほしいと思います。
(50代・既婚・小売業)

●会社は主婦のパワーを評価し、もつと重用して欲しい。パートも家事のヒマな時間だけ働くとか、ちょっとした小遣い稼ぎとかの気持ちは捨てるべきです。自らの地位を落としていると思う。パート諸姉の自覚こそが大切と思つ。
(50代・既婚・小売業)

●自分の都合のいい時間に働けるのはありがたいと思いますが、子供の手はなれてくるので、このままでもいいのかなという気がしています。
(30代・既婚・サービス業)

パートタイマーの気持ちと正社員の気持ち

ウォッチング

県内の働く女性に
編集員が聞きました

パートの女性をどう思うの？

●以前は結婚してもフルタイムで働きたいと思つていましたが、まだ、受け皿が不十分だと思つています。そう考えると、私も、結婚後パートタイムで働くことになるだろうなと考えている今日この頃です。
(20代・未婚・小売業)

●時間の制限があるので、仕事を任せにくい。
(20代・未婚・小売業)

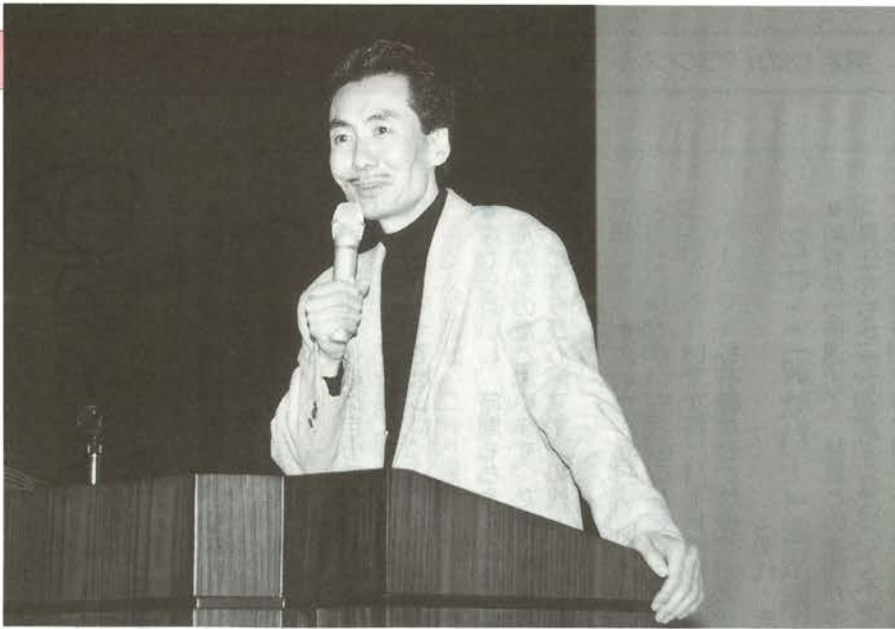
●現在、現場は全員パートになっています。ただ現場と事務との接触がないので、おつきあいはありません。
(30代・未婚・製造業)

●社員と同レベルの働きをしてもらっています。ただ、「私は、パートだから」という意識は捨ててほしい。
(30代・未婚・サービス業)

●正社員と比べて条件が悪いのに、同じレベルの仕事をごなしてくれています。「くろくろくさま」といいたいです。
(30代・未婚・サービス業)

●どんな形であれ、社会にできるのはよいことですし、パートだということを、あまり意識せず、それなりに責任のある仕事をするこゝによって、その人の生きがいにもつながるのではないかと思つています。
(30代・未婚・小売業)





村瀬春樹さん プロフィール
エッセイスト・フリーライター 1944年横浜市生まれ
著書「快傑/ハウスハズバント」「台所タッグマッチ」ほか

台所にみた男と女

21世紀型家族のあり方

エッセイスト

村瀬春樹さん

最近、生活者重視ということがうちだされていますが、今まで、僕たちは、台所を中心とした生活を男と女の関係の中で見てきたような気がします。

では、戦後の生活、昭和二〇年あたりから、一〇年ごとに五つのブロックにわけて振り返ってみたいと思います。

昭和二〇年代は「団塊の世代」が生まれたあたりですね。その頃の平均寿命は、男は五〇・一歳、女は五四歳。代表的なメニューは、「サツマ芋の煮付け」とか「麦飯」・芋、豆、カボチャの時代だったんですね。

昭和三〇年代は、肉を食べる量が増え、死因のワースト三は、脳溢血、癌、心臓病です。

「三種の神器」（電気冷蔵庫、洗濯機、掃除機）が家庭内に入ってきて、家事の軽減化が図られてきたわけですね。この頃の平均寿命が、男が六五歳、女が七歳。食卓のメニューは、ライスカレーでした。

昭和四〇年に入ると、即席食品が全盛時代を迎えます。この頃の平均寿命は、六九歳になります。女の人は七四・七歳です。一〇年でこんなに違ってくるんですね。

その理由は、栄養状態が良くなってきた、医療が発達した、戦争がなくなったことです。

代表的なメニューは、豚ヒレ肉のトン

カツにレタスとブロッコリーのサラダがつき、本格的な肉食生活になってくるんですね。

昭和五五年代にはいると、住宅が洋風化し、インベータゲームが流行っていったね。この頃の平均寿命は、女性が七八・三歳、男性が七三歳。代表的なメニューは、ハンバーグ、スパゲッティのナポリタンなど、加工食品が主流を占めています。

昭和六〇年代に入ると、国税調査が行われ、おもしろいことに日本全国で、家事専業の主夫は二万一、〇三三人いて、そのほとんどが、五五歳以上。つまり、定年退職後の男の姿なんです。

平成五年には、生活者重視の政策が打ち出され、食生活は、グルメブーム、一方でヘルシー派や健康志向派などが現れたりしました。

平成三年は、飽食の時代といわれたように、骨粗鬆症という病気が問題になりました。どうもこのあたりから、人生と生活が離れ離れになってしまったようです。

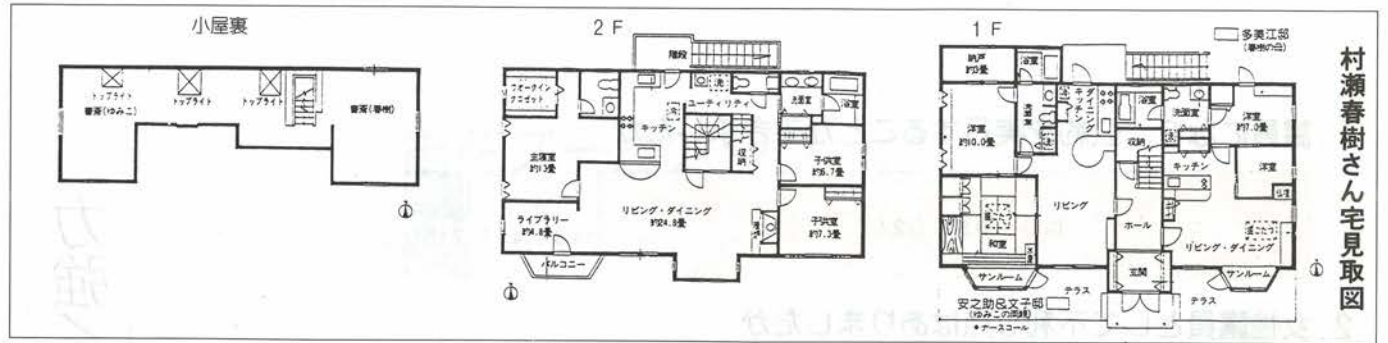
どうして、このようになってしまったのでしょうか。

一九八八年に総理府が行った食生活文化調査の中で、核家族が核分裂家族になってきたと報告しています。毎日の夕食を一緒に食べるという家族が全国で半数以下になってしまった。つまり、孤食の時代です。

家族がばらばらになってしまった原因は、性別役割分業にあるのではないかと考えます。

一八九八年（明治三二年）に、初めてできた明治民法第一四条には、女性の立場を「妻が左にかかたる行為をなすには、夫の許可をうくることを要す。」と

村瀬春樹さん宅見取図



謳っています。つまり、あらゆる大事なことは、すべて夫の許可を得なければいけないということなのです。

また、尋常小学校修身書の性別役割の章でも「父は一家の長として家族を引き、家計を支え、また、外へ出ていろいろな仕事を働いています。母は主婦としてうちにおいて、父を助け、家を調え、我らの世話をしています」と書いてあります。

まさに、女性の人生というものは、「幼くしては、親に従え。嫁しては夫に従い、老いては子に従う」という儒教の「三従の教え」の通りだったんです。

「男は外、女は内」という性別役割分業が人為的に百年間のうちに強烈に僕らの社会の中に植え付けられてしまった。女性自身も無能力者としての役割を進んで果たしてしまうというケースも大変多いわけです。

今まで、女性の話をしたわけですが、性別役割分業は、男性にどういった影響を与えてきたのでしょうか。

一つめは、人間関係のほとんどが、仕事関係の同僚や上司・取引先であったりして、地域に帰ってくると、ほとんど知り合いがいなかったりするんです。

二つめは、日常生活の茶飯の技術を身につけてこなかったことです。これは、性別役割分業の一つの結果かもしれませんし、婦人問題であると同時に、大変深刻な男性の問題でもあるわけです。

一九八〇年、僕のパートナーの「ゆみこ・ながい・むらせ」に「私は、村瀬さんのお母さんでも召使いでないのよ」という異議申し立てを受けました。そこで、僕は

①男が当たり前と思っていた生活が彼女を傷つけていた。

②男たちが夢や志を実現する影で、女達は無能力者とみられていた。そういう分業を当たり前の社会と思っていた。と気づかされたわけです。

僕は、自分の人生をどう考えていったらいいかということ、三〇代あたりから考え始め、その結果、三世帯住む住宅を造ったわけです。建築資金は、僕たちと僕の母、ゆみこの両親、合計四つの家族の財布を合算し、予算と使い方をうまく組み合わせ、「四つの財布で三世帯住宅」をスローガンにしました。

一階を左右に分け、右側は僕の母親の部屋、左側には、ゆみこの両親、一階には、僕たちの家族が住んでいます。平日は毎食、夕食を一緒に食べますが、日曜日だけは、別々にしました。間取りとか住宅の工夫は、人間関係に、ある決定的な影響を与えているんですね。

まず、玄関の前にテラス、さらに、その下側がスロープ。車椅子で生活することを前提に考えてある住宅なんです。これをバリアフリー住宅といいます。各世帯間のプライバシーと独立性を最優先しそれぞれの家族の部屋にも玄関があり、表札も三つ、呼び鈴も三つあります。電気、ガス、水道も全部別々なんです。どの部屋にもキッチン、お風呂場、トイレがあるんです。

つまり、集合住宅を三つ集めたような家。これが、家族関係で大事なことになるんです。人間関係でいいますと、妻と夫の距離、親と子の距離、親と親の親の距離をどうきちゃんとスタンスをとるかという事です。

世帯間は、内線電話でつながっていて、緊急時に「ナースコール」(各親の寢室の枕元・トイレ・浴室)が二階センターを呼び出すと、即、駆け付ける仕組み

けもあります。

二階にはダイニングルームがあり、キッチンがあります。ここにはシンクがふたつあるんです。なぜかという、複数の人が台所に立つことを前提につくってあるんです。

これは、僕が長年の念願であった「2シンクキッチン」で、約二平方メートルの台所で、真ん中のガスレンジの両わきにふたつのシンクがコの字形になるように取り付けられています。僕もゆみこも働いているので、食事の支度は一致協力して、出来るだけ短時間で済ませるのを原則にしました。「男女共同参画型社会キッチン」とでもいいたいでしょうか。

つまり、ライフスタイルが変わると住宅も変わり、住宅も変わったことにより、ライフスタイルがサポートしてくれるわけです。粋な言葉でいいますと、ハントイをフリーにしてしまいう自立した生活が出来るわけです。

「親しき中にも礼儀あり」というわけで、「Don't disturb please」(邪魔しないで)という札も作りました。家族といえどもキッチンとしたスタンスをとらないと、どろどろの関係になってしまう。つまり、泥臭さより水臭さがスローガンなんです。

今まで、僕の住宅を紹介してきましたが、一番大事な事は、夫婦が中心となり、それぞれの人をつなぐ僕たちがうまくやっていくことがすべての基本です。キーワードは、性別役割分業の解体といいたいでしょうか。

夫婦単位を考えず、個人で考える。家族という単位で考えないで、家族の一員であるが、それは個人、独立した人格の一人である、という考え方が大切なんです。

1. 議員になり、公約を実行することができましたか

はい 78.6% (22人)	いいえ 14.3% (4人)	無回答 7.1% (2人)
----------------	----------------	---------------

2. 女性議員として不利な点がありましたか

はい 39.3% (11人)	いいえ 53.6% (15人)	無回答 7.1% (2人)
----------------	-----------------	---------------

3. 女性という特性を生かした政策をたてることができましたか

はい 82.1% (23人)	いいえ 10.7% (3人)	無回答 7.2% (2人)
----------------	----------------	---------------

4. 静岡県の女性の人達にエールを一言

●21世紀を迎えようとしている今、女性を取り巻く社会は、大きく変わりつつあります。しかし、女子の大学進学率は近年著しくアップしているのに対して、女性の政治への進出は、依然として低レベル、先進国の中では最下位にあります。ほんとうに、男女平等の姿に変えるためには、女性が政治に・社会にゆるぎない地位を形成し、確固たる民主主義を維持していかなければなりません。特に、高齢化社会を目前にして、男性支配社会に甘んじていては真の福祉大国は望めません。政治決定の場にこそ「男女共同参画」の実現が必要と思われます。(70代)

●「政策決定の場に女性を」と言われていますが、今までの男性中心の社会の壁は厚いです。

一人ひとりの女性の意識が自立していくことが大切です。民主教育は、四十五年以上も経過し、しっかり定着していると思われましたが、学校教育だけではなく、回りの生活習慣に根強いものがあります。女性が積極的に自分を前へ出すことはとても難しいですが、しかし自己表現をはっきりさせていくことだと思います。

「やる気」になったら行動に移すこと。また、自信を持って、仲間を作り、ネットワークを広げていくことです。「誠実に一歩ずつ」が私のモットーです。

(50代)

力強くネットワークづくりを

「市町村女性議員にききました」

アンケート配布数46 回収率61%
 年齢配布 三〇代2 四〇代10 五〇代8 六〇代4 七〇代3 不明1

地方議会における女性議員の状況

		都道府県議会	市町村議会
全 国 (H4.12現在)	議 員 総 数	2,896人	62,464人
	うち女性議員数	82人	2,706人
	女性議員比率	2.8%	3.3%
本 県 (H5.9現在)	議 員 総 数	78人	1,492人
	うち女性議員数	1人	48人
	女性議員比率	1.3%	3.2%

資料：自治省
 県総務部市町村課